

水戸市農業委員会だより

令和3年7月発行

第192号

発行所

水戸市農業委員会事務局

水戸市中央1丁目4番1号

☎224-1111(内線 6422)

年4回発行



アグリメイトいきいき農業体験事業 ～さつまいもの苗植え体験 飯富小学校～

6月8日(火)、水戸市立飯富小学校(鈴木陸校長)の2年生と5年生の児童が、さつまいもの苗植え体験を行いました。

これは、子ども達が農業体験を通じて生きる力を育み、農業への理解を深めることなどを目的に、水戸市農業委員会等が実施している「水戸市アグリメイトいきいき農業体験事業」の一環として行ったもので、今年度は飯富小学校を含む市内の小中学校19校が取り組んでいます。

当日は晴天に恵まれ、じんわりと汗ばむような気温の中、学校の南側にある畑に児童たちが集合しました。先生方から苗植えの方法を教わった後に、体験がスタートしました。

まず初めに、5年生が2年生をサポートする形で苗植えを行いました。苗を挿し込む穴が小さく、苦戦する2年生を見て、5年生は、「まずビニールに穴をあけよう。そうしたら、優しく植えてあげてね。」などと積極的に声をかけてあげる光景も見られました。

次に、5年生が苗植えを行い

ました。「愛情をこめてね。」という先生の声掛けに対し、「おいしくなあれ。」とみんなで声を合わせて植えたり、大きく育つためにはどのように土を盛ったら良いのかと先生に質問したりと、児童自らが積極的に農業に関わっていく姿が見られました。

秋には、この日植えたさつまいもの他に、同校の児童が植えた青パパイヤの収穫も行うとのこと、収穫の時期を楽しみにしている様子も伺えました。

目次

- アグリメイトいきいき農業体験事業
～さつまいもの苗植え体験 飯富小学校～・・・(1頁)
- 新しく2名の農業委員が任命されました・・・(2頁)
- 農業者年金に加入しませんか・・・(2頁)
- 農業委員会活動報告・・・(2頁)
- 農業ヘルパーセンターについて・・・(3頁)
- 全国農業新聞を購読しませんか・・・(3頁)
- 農地改良には事前協議が必要です・・・(3頁)
- 農作業事故にご注意ください・・・(4頁)
- 農耕用トラクターの盗難にご注意ください・・・(4頁)
- 農業委員のひとこと・・・(4頁)

新しく2名の
農業委員が任命
されました

令和3年6月議会の同意を得て、7月に市長が新たに2名の農業委員を任命いたしました。



加倉井 幸夫
(飯富地区)



飛田 信広
(大場地区)

【東部地区】

任期は令和3年7月1日から令和5年7月19日までです。どうぞよろしくお願いいたします。



農業者年金に
加入しませんか

農業者年金は、農業者がより豊かな生活を過ごせるよう、国民年金に上乘せした任意加入の公的な年金制度です。

農業に従事する方は広く加入でき、一定の要件を満たす方には、保険料の国庫助成があります。

また、保険料は全額社会保険料控除の対象となり、受給する年金についても、公的年金等控除の対象となります。

《お問い合わせ先》

農業委員会事務局農政係

(☎)224・1111

内線6432



農業者年金の年額支給額の試算

加入年齢	納付期間	保険料納付総額	年金額 (年額)		想定される受給総額	
			男性	女性	男性	女性
20歳	40年	960万円	76万円	64万円	1,624万円	1,717万円
30歳	30年	720万円	50万円	42万円	1,078万円	1,139万円
40歳	20年	480万円	30万円	25万円	638万円	675万円
50歳	10年	240万円	13万円	11万円	284万円	301万円

※上のケースは、通常加入で保険料月額2万円で加入し、65歳までの運用利回りが2.5%、65歳以降の予定利率が0.25%となった場合の試算です。

農業委員会活動報告
4月～6月

- 4月**
 - 5日(月) 第9回運営委員会
 - 13日(火) 第10回総会
 - 農地利用最適化推進協議会
 - 15日(木) 西部地区連絡会
 - 20日(火) 中部地区連絡会
 - 26日(月) 東部地区連絡会
- 5月**
 - 6日(木) 第10回運営委員会
 - 13日(木) 第11回総会
 - 農地利用最適化推進協議会
 - 17日(月) 西部地区連絡会
 - 20日(木) 中部地区連絡会
 - 25日(火) 東部地区連絡会
- 6月**
 - 4日(金) 第11回運営委員会

国が支える。安心が大きくなる

担い手 積立年金 [愛称]

農業者年金

- 7日(月) いばらき農業委員会女性協議会役員会
- 11日(金) 第12回総会
- 農地利用最適化推進協議会
- 15日(火) 西部地区連絡会
- 21日(月) 中部地区連絡会
- 25日(金) 東部地区連絡会



☆研修の様子☆

なお、農家の要望に答えられるよう、水戸市ふるさと農場において農作業の実技研修会を実施してください。

補助労働力を必要とする農家を募集しておりますので、農業ヘルパーセンターに是非ご相談ください。

令和3年度のヘルパー登録者は42名おりますが、令和2年度の求人依頼の件数は13件しかなく、ヘルパー登録者に対し求人依頼が少ない状況です。

農業ヘルパーセンターでは、農家を支援するため、ハローワークと連携しながら、補助労働力を必要とする農家へ農業ヘルパーを紹介しております。

《お問合せ先》
施しております。

(一財)水戸市農業公社内

農業ヘルパーセンター

(☎251・5532)

農業ヘルパーセンターについて

全国農業新聞を購読しませんか

全国農業新聞は、昭和27年に創刊され、農政の動きや、現場で役立つ栽培技術・流通の情報、魅力的な農家の取組などを幅広く伝え、担い手の皆様の経営発展に役立つ新聞です。

ぜひ一度手に取っていただき、農業の情報収集のツールとして購読してみませんか。

○発行日：毎週金曜日 ○購読料：月額700円(税・送料込)
《お問合せ先》農業委員会事務局調査広報係 (☎224-1111 内線6422)



農地改良には事前協議が必要です

「湿田の解消に」、「田んぼを畑に」といった目的で自ら盛土を行う場合、農業委員会と事前に協議を行う必要があります。

農地改良とは

▽耕作に適した農地にするために、農地に埋立てをおこなうものです。

農地改良を行う際の主な要点

▽盛土に使用する土質については、耕作に適した良質土のみとなります。

▽隣接地の用途に支障をきたすことがないように、埋立てを行う場合においても、高さ制限があります。

▽埋立面積は3,000㎡未満です。

▽期間はおおむね180日以内です。

▽農地の埋立等に使用する建設発生土等の発生元を明確にすることが必要です。

▽事業実施の1か月前までに所定の用紙に必要書類を添えた協議が必要です。

▽工事施工後は、農地として耕作の用に供する計画であることが必要です。

※書類の受付や相談は随時受付けておりますので、ご不明な点はお問い合わせください。

《お問合せ先》農業委員会事務局調査広報係 (☎224-1111 内線6422)

農作業事故にご注意ください

令和2年に茨城県内で発生した農作業事故件数は228件で、うち水戸市内は4件でした。月別にみると、8月が45件と最も多く、次いで9月が31件でした。近年は、夏場に農作業事故（熱中症を含む）の発生割合が高くなっています。

夏場は特に熱中症に注意が必要です。高温時の作業は極力避けて、作業中は水分補給をし、こまめに休憩をとりましょう。

また、死亡事故は8件あり、うち5件はトラクター等の農業機械での事故でした。トラクターでの事故は、走行中の転落・転倒や作業機への巻き込まれ等の他にも、作業機の交換・点検時、乗降車での転落等、停止中にも発生しています。

慣れた作業と油断せずに安全を心がけて十分にご注意ください。

また、万一の事態の備えとして、事故に対応した保険への加入をお願いします。

農耕用トラクターの盗難にご注意ください

市内で、トラクターの盗難被害が発生しています。

▼盗難被害を防ぐための対策を
農作業後は、トラクターを田畑に停めたままにせず、鍵がかかる倉庫にしまいましょう。

また、ハンドロックやタイヤロック、警報装置等の防犯用品を活用するなど、防犯対策に取り組んでください。

▼すみやかに廃車手続きを
盗難にあった場合、廃車手続きをしないと来年度以降も税金がかかります。

警察署または交番に被害の届出をしたうえで、届を出した警察署名（交番名）・届出日・受理番号を控え、市民税課にお越しください。

《お問合せ先》

市民税課諸税係（廃車手続きについて）

☎224・1111

内線1581



農業委員のひとこと

例年、田植えの季節になると、普段の田んぼでは見かけない若い人達の姿が見えます。それは、連休を利用して、実家の田植えを手伝いに来ている人達です。

農業の後継者不足は深刻になっています。かくいう私も、家の跡取りはいても農業後継者はいません。健康に留意して、頑張れるところまで頑張るしかないのです。

さて、水戸市内各地では、土地改良事業が進められています。この事業では、集積率を高くし、助成事業を利用することで、地元負担金を安くすることができ、中間管理機構を通して10年以上農地の貸借を結ぶことで、地域集積協力をもちょうことができます。

少しでも有利に土地改良事業を進めていくには、地域の話し合いによって、担い手となる認定農業者に農地を集積することが重要だと感じています。

関係機関と連携して、微力ではありますが地域に貢献できるよう努めてまいりますので、よろしくお願いたします。

（農業委員 高橋 基）

田植えの忙しい時期が終り、ほっとする間もなく、次の作業に励む毎日です。

農業は毎日仕事です。天候・気温・周りの環境に左右されることから、難しく奥の深い地味な努力が必要となり、日々勉強、といったところです。

しかし昨年から、新型コロナウイルス感染症の影響で私達の生活も一変しました。

いろいろな行事、会合が中止になったことで、人と人とのつながりが希薄になり、活気を取り戻すことができません。一日も早く元の生活に戻れることを願ってやみません。

また、農業従事者の高齢化も深刻です。『令和3年度、米価は大幅に下落』といった記事も見逃すことができません。暗いトンネルの中に入ったような状況ですが、少しでも明るい出口を見つけ、活性化を図りたいと思います。

微力ながら、農業発展のため、地域の方の御協力をいただきます。がら、頑張りたいと思います。

（農業委員 一木 克昭）